



# パッケージ素材のガイドライン（2022 Version）

使用する素材	推奨	注意点
紙・木・木質バイオマス	◎	生物多様性の観点からもFSC認証取得素材を推奨。再生紙、廃棄予定の端材や木くずも推奨。
パーム・トウモロコシ・サトウキビ・大豆・米	○	食品は食品として消費されるべきであり、素材の利用を目的に専用に生産されたものはNG。賞味期限切れや搾りかす、廃棄米など廃棄食品の利用のみ可。また、生物多様性・環境負荷・人権などの観点から、パームはRSPO、サトウキビはBonsucro、大豆はRTRSなど、ISEALアライアンス加盟の認証を取得している持続可能な素材であること。バイオマスについては下記も参照。
葦・萱・竹	△	不法伐採ではないことを示す自治体などの伐採許可証の確認が必要。また川辺の葦・萱は淡水系の生物多様性保全に有益であり使用は不可。なお、竹は強毒の赤カビが生えやすく、衛生面から防カビ処理をせずに食器に利用するのは不可。バイオマスについては下記も参照。
シリコン・高密度ポリエチレン (HDPE)	◎	強度が向上するためリユースでの使用を推奨。但し、航空機搭載品は軽量化にも充分配慮する。
再生素材	◎	再生紙・再生段ボール・再生プラ・再生アルミ・再生ガラス等の再生素材は、新規製造と比べて再生時のCO2排出が少ないため強く推奨。なお見た目が変わらないため“100%再生素材”など注記を製品に入れること。
再生しやすい素材 (A-PET/アルミニウム/飲料用規格瓶)	◎	透明なA-PETは燃焼してもCO2排出が少なく、また再生しやすいとされており推奨。アルミはスチールと比べ再生時のCO2排出が少なく、またスチール並みに強度も向上して実用面で問題がないため特に機内提供品ではより軽いアルミ缶を推奨。またワイン・酒などの飲料用瓶は再生利用・再充填のための規格(大きさ・色など)が定まっており、規格外の瓶の設計は回避する。
バイオマス100%素材	◎	国・地域のリサイクルインフラが整っておらず、燃やされる場合は環境負荷の観点からバイオマス100%を選択。持続性については上記を参照。
堆肥分解性	×	公的な堆肥分解性の証明があっても海外も含めて堆肥分解インフラがほとんどないため実際には分解できず、お客さまの誤認につながるため不可。廃棄食品の堆肥化設備での分解は機械性能に依存するため要確認。
酸化分解性	×	分解せず海洋を汚染するため不可。なお、欧米では使用が禁止されている。